

休暇を利用して実施する予定。結果はレポートにまとめる予定。

■カレンダー2023 を制作し、配布と販売

会員の挨拶品と資金捻出のため例年通り制作し、無料配布と販売を行った。

2024 年度も継続予定

■三人目のネパール留学生ビスマ ライさんの自己紹介



着任早々、当事務局に寄せられた英文メッセージを抜粋したものです。

今年4月より甲子園大学大学院栄養学研究科博士課程後期課程に入学されました。研究される背景と目的が述べられています。

ネパールに於ける肥満者が増加しています。都市化やグローバル化に基づいた生活様式の変化によるものとおもわれます。一方、ネパールに於ける甲状腺機能低下症は高率で8~11.6%と推定されています。ヨード添加塩の導入後、ヨードの摂取は十分と思われるが、依然として機能低下が存在しています。私の修士研究では、甲状腺機能低下症患者の80%以上の人は肥満(25>kg/m²)で、内臓脂肪；腹部肥満率 WHR が0.95以上である。ヨード摂取が1日に1100µgを超えると著しい逆の結果が出ていることがよく知られています。

私の研究ではヨードの摂り過ぎや生活様式の急な変化は大人のネパール人のエネルギー代謝に顕著な悪い異常を引き起こすと推測しています。

博士課程では、ネパール人の健康計画を構築するのに役立つヒントを得るために、ヨード過剰摂取によるネズミの新陳代謝と認知機能に及ぼす影響について詳しく調べたいと思っています。

まず次の実験が行われます。

生後14週の12匹の雄のネズミが2つのグループに分けられます。1つのグループは35µgのKIO3/100gを含む純化された食事が与えられ、他のグループ(IE)は70µgのKIO3/100gを含む純化された食事が与えられます。定期的に体重が測られ、採血され、尿と便が集められ、ネズミの認知・記憶を調べるためにY字行動試験を行う。ヨード過剰摂取6か月後各ネズミは甲状腺、肝臓、腎臓、白脂肪組織、脳が取り除かれて、いろいろな分析を行います。

この研究で私は血清中のアミノ酸、短鎖脂肪酸を限られたサンプルで量的測定をして、ヨード過剰の影響について評価したいと思っています。

この実験が上手く成功すれば、もっと広範囲なマウス実験が計画され、ヨードの過剰摂取と肥満やタイプIIの糖尿病のような新陳代謝の病気(生活習慣病)との複雑な関係が明らかになるであろう。この研究はヨード添加塩が使われて生活様式が急に変化して色々な病気が生まれる国々にとっては重要な意味を持つと信じています。

追記

当NPO法人のミッションとしてネパールの農村地帯に於けるヨード欠乏症の根絶のために、ヨード欠乏のない赤ちゃんを出産して貰うために、ヨード欠乏の妊婦に絞ったヨード補給活動を行ってきました。ヨード補給はフジッコ(株)製の昆布ミネラルカプセルで行った。(ネパール政府はヨード摂取にヨード添加塩を推奨しているが、実験的に昆布を使用した)この際妊婦の尿中ヨード検査を行うと、下記の表のごとく欠乏症の確率は25%前後であり、ここにプロジェクトの焦点を当てヨード補給をしてきました。そのプロセスの中で、亢進症、危険と言われるヨード過剰摂取の妊婦の確率が50%弱もあり、ヨード欠乏症とは違った生活習慣病の発生を危惧していました。この危惧にフォーカスされたのがビスマライさんです。彼女の今後の研究を見守りたいと思っています。